



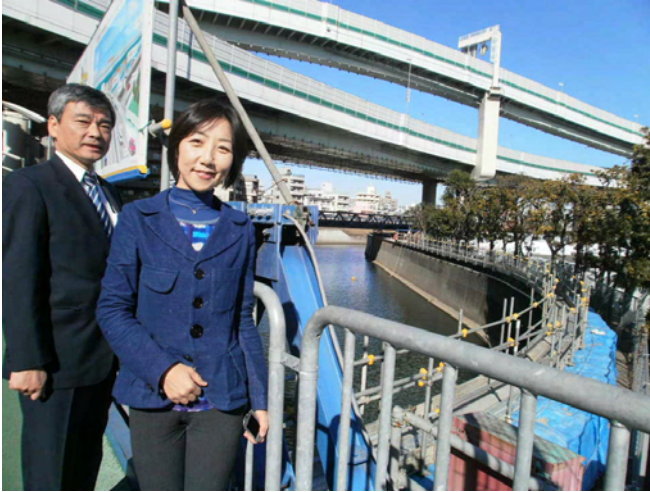
# 再選めざす 日本共産党 そねはじめレポート

2010年 12月30日発行 第34号

そねはじめ事務所  
114-0032  
北区中十条2-11-6  
Tel: 3907-1135  
Fax: 3906-3225

## 情報公開による共産党の調査で堀船水害の新たな原因がうきぼりに 都の棧橋による水位上昇予測52%は 首都高の水理実験に反映していなかった！

現場調査するそねはじめ前都議と山崎たい子区議



そねはじめ前都議と日本共産党区議団は、7月5日に堀船などで発生した石神井川の氾濫による都内最大の浸水被害について、被災住民へのまともな被害補償や今後の水害の危険に適切な対策を講じるためにも、原因究明にねばり強くとりくんでいきます。

### あらゆる角度で原因究明

この間、日本共産党は水害の原因について、

① 大量に溢水した溝田橋下流のたばこ倉庫付近の護岸は、下流の護岸高5.8メートルに比べて2.0メートル低い5.6メートルだったこと。

② その低い護岸は平成10年の首都高水理実験データでも、50%降雨によつて、最高時は5.52メートルまで水位が上がるポイントであり、護岸高から8%の余裕しかなかったこと。

③ 新柳橋そばの河川内に巨大な棧橋が設置され、上流の水位上昇に影響を与えた可能性があること。

④ 水路の切り替え途中で2つの河川が合流する構造が影響したこと

等を指摘し、専門家による徹底検証を求めてきました。

### 「50%対策はできていた」と開き直り

これに対し首都高(株)や東京都は「50%対策はできており、水害の原因はそれ以上の降雨があつたため」「棧橋の影響については、模型実験はしていないが机上シミュレーションで問題ないと判断した」等と述べるにとどまり、未だに水害の責任を認めていません。

### 同時に行われた2つの水位予測資料を入手

そねはじめ前都議と北区議団は、東京都への情報公開請求による「棧橋による水位への影響シミュレーション結果」についての資料(昨年10月)と、笠井亮衆議院議員から国土交通省を通じて首都高の「水理模型実験」(昨年3月から



新柳橋そばの都の工事棧橋

今年5月にかけて行われた追加実験)の資料を、12月に入手することができました。

### 首都高の実験模型には棧橋がなかった！

2つの資料からは、東京都が昨年9月に、棧橋による水位上昇が50%降雨時に52%になることを予測していたにもかかわらず、同じころ実験され今年5月に報告された首都高の「水理模型実験」報告には、当然盛り込まれるべきこの水位上昇予測が、全く反映されず、事実上棧橋は存在しないことになっていました。

## 専門家も「溢水箇所に影響の可能性」を指摘

ある専門家からは「もし棧橋付近の水位が模型実験の想定より52センチ上昇していた場合、上流の溢水部分でも、川の断面積にもよるが40センチ〜50センチの水位上昇をもたらすのではないかと」の指摘も受けました。

今回溢水した護岸付近は、首都高の模型実験でも50ミリ豪雨時の水位が最高で5.4メートルに達するとされています。

水害後、北区の補正予算で設置された自動水位測定器



もし下流にある棧橋の影響による水位上昇が、この場所で20センチを超えるなら、500ミリの雨でも、たばこ倉庫付近の護岸5.6メートルは決して安全ではないことが判明します。何の対策もとっていなかった責任はますます重大ではないでしょうか。

## 第三者の専門家による徹底検証を

日本共産党北区議団とそねはじめ前都議は、地元の対策協議会や住民の皆さまとともに、次の3つの仕事に、最後までねばり強くとりくんでまいります。

それは第一に、5年ぶりの石神井川水害について、原因の徹底究明とともに今後の水害の危険性について客観的に明らかにすることです。

首都高と東京都に対しては、これが「予測を超えた天災」ではなく、「新たな人災」としての責任を認め、まともな被害補償にとりくませることを、

そのためにも第三者の専門家による徹底検証をおこない、二度と石神井川下流の北区で水害を発生させない決意と対策を打ち立てさせることです。

皆さまのご意見、ご要望をお寄せください。

